

令和 5 年 5 月 9 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K01179

研究課題名（和文）江戸初中期における自然学の展開 「天学」概念の成立を中心に

研究課題名（英文）Development of Natural Philosophy in the Early-Mid Edo Period - Focusing on the Formation of the Concept of "Tengaku" (Heavenly Learning) -

研究代表者

平岡 隆二 (Hiraoka, Ryuji)

京都大学・人文科学研究所・准教授

研究者番号：10637622

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、18世紀初頭の日本で、天文・気象現象にまつわる科学的探究の新たな枠組みとして提唱された「天学」概念の成立にまつわる諸問題の解明に取り組んだ。とくに（1）南蛮系宇宙論書の成立と継承、（2）江戸初中期の時計駆動天文模型、（3）『天経或問』の流布と影響、という3つのテーマに沿って研究を進めることで、「天学」概念成立の史的背景と、それが江戸時代における科学的自然探究の展開に果たした役割の重要性を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

江戸初中期日本における自然学の展開を、歴史学の手法を用いて跡付けることで、日本社会における科学的自然探究の初期の実像を明らかにした。またその調査・分析結果を、日・英両語の論文等を通じて広く公開し、将来の国際的な研究の基盤を構築した。またそれらの成果は、近世日本の科学史にとどまらず、思想史、文化史、海外交流史など多方面にわたる波及効果が期待できること。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to clarify issues related to the formation of the concept of 'tengaku (heavenly learning)', which was proposed as a new framework for scientific inquiry into astronomical and meteorological phenomena in early 18th-century Japan. Research was conducted on three themes in particular: (1) the formation and transmission of Nanban cosmology books, (2) clock-driven astronomical models in the early-mid Edo period, and (3) the circulation and influence of the Tianjing huowen. Overall, the study clarified the historical background to the establishment of the concept of 'heavenly learning' and the important role it played in the development of scientific exploration of nature in the Edo period.

研究分野：科学史

キーワード：天文学史 宇宙論 江戸時代 イエズス会 天経或問 スヘラの抜書 西川如見 東アジア科学

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

(1) 先行研究

江戸時代は、古代以降おもに信仰や文学の対象だった「自然」が、科学的探究の対象として社会的に広く認識されるようになり、旺盛な研究が繰り広げられた日本史上の大きな画期であった。なかでも18世紀初頭に西川如見(1648-1724)・西川正休(1693-1756)親子が提唱した「天学」概念は、長崎貿易を通じて伝来した西洋・中国の天文地理学知識を整理・検討したうえで、天文・気象現象にまつわる総合的な研究の枠組みを提示したもので、とくにアリストテレス宇宙論の普及と受容に重要な役割を果たしたことなどで知られる。その後代への影響は甚大で、とくに代表的著作である清・游藝『天経或問』(1675年序)は、西川正休によって1730年に和刻刊行されたあと、多数の注釈書・関連書が執筆・刊行されるなど、大きな学問的潮流を生み出した。これらについては、すでに渡辺敏夫、吉田忠らの先駆的な研究がある。

(2) 未解決の問題

しかしそれらの先行研究で十分な検討がなされていない問題もなお多く残されている。とりわけ重要なものとして、「天学」以前に成立・流通した南蛮系宇宙論書の成立と継承にまつわる研究がなお不十分であること、代表的著作である『天経或問』の諸本が現在どこに、どのような形で伝存し、それらが江戸社会の中でどのように流通したのかの実態が十分に把握されてこなかったこと、の2点を挙げることができる。

このうち について筆者は、かつて単著『南蛮系宇宙論の原典的研究』(花書院、2013年)において関連諸著作のテキスト系譜の概要を明らかにした。しかし、それらの著作が近世初期の人々にどのように読まれたかについては明確な見通しを得るには至らず、またそれが後の「天学」に与えた影響の有無についても不明とせざるを得なかった。また については、同書の一次史料である清刊本・和刻本・写本の現存状況がこれまで正確に把握されてこなかったため、その後代への流布と影響についても実証的な分析が難しい状態だった。

2. 研究の目的

こうした背景のもと、対象となる漢・欧・日語の文献史料や器物史料を体系的に収集・分析し、江戸初中期日本における「天学」概念の成立過程を明らかにすることを目的として、本計画研究を開始した。またこの研究目標を達成するために、互いに密接に関連する3つの研究テーマを設定し(下述)、それらのテーマに沿って各種史料の収集・分析を進めた。

3. 研究の方法

本研究では、対象となる一次史料を、それぞれの学問的・文化的背景を踏まえつつ考究・分析することをその方法的な基礎とした。また本研究の最重要テキストと言うべき『天経或問』の内容分析については、初年度に同学の有志を募って「『天経或問』研究会」を組織し、月一回の本研究会読・訳注作成を進めた。2020年初頭からの新型コロナウイルス流行によって中止を余儀なくされるまで、約3年間で計26回の研究会を開き、参加者らによる討議を通じてテキストの理解を深めた。

本研究の所期の目的を達成するための個別の研究テーマは、予備的な調査・分析や研究会での討議を重ねる過程で、大きく下の三つに収斂した。

(1) 南蛮系宇宙論書の成立と継承

イエズス会日本布教に由来する南蛮系宇宙論書が、17世紀前半頃にどのように成立し、またキリシタン禁教後にどのように継承されたかの解明を進めた。これらのテキストは、時代的には『天経或問』に先行するが、内容的には多くの共通点を持つため、「天学」成立以前に流通した類似テキストとして重要である。また西川如見は、先行研究において南蛮系宇宙論書に通じるとされてきたが、具体的にどの著作を参照・利用していたのかといった問題は、必ずしも明らかにされていなかった。よって本テーマでは、西川如見・正休親子による南蛮系テキストの具体的な利用のあり方の解明も視野に入れつつ研究を進めた。

(2) 江戸初中期の時計駆動式天文模型

近世初中期の日本で製作された時計駆動式天文模型についての研究を進めた。天地の構造や日月の運行を模式的に示し、時計機構によって自動回転する宇宙模型の存在は、先行研究でもほとんど注目されておらず、本研究の当初計画でも取り上げる予定はなかった。しかし研究を進める過程で良質の史料群に遭遇することができ、「天学」成立の背景として重要なものと判断したため、新たな研究テーマとして設定した。

(3) 『天経或問』の流布と影響

『天経或問』の諸本が、現在どこに、どのような形で伝存し、それらにどのような異同があるのか、またそれらのテキストは誰によってどのように生み出され、江戸社会の中で流通していたのか、などの諸問題を、現存する同書の清刊本・和刻本・写本の総合調査に基づいて実証的に研究した。またそれらのテキストが、江戸時代の人々にどのように読まれ、どのような影響を与えていたのかについて、「天学」概念の伝播と継承の観点から分析した。

4. 研究成果

(1) 南蛮系宇宙論書の成立と継承

新発見の南蛮系宇宙論書である『スヘラの抜書』(17C 初頭)の内容を詳しく分析し、その成立から後代への影響までを明らかにする論文を発表した(下掲、雑誌論文2、学会発表1・3参照)。同書は2019年にドイツで発見されたイエズス会の日本語宇宙論教科書で、現存する南蛮系宇宙論書のなかでラテン語原典にもっとも近い特徴を残す日本語テキストであることを解明した。また本論文は、同書の発見者である Sven Osterkamp 氏(ルール大学ポーフム教授)との国際共同研究の成果でもある。

また後代への継承については、『南蛮運氣論』(17C 中頃)の本文分析から、同書の編者がアリストテレス的宇宙論を中国の運氣論を通じて理解・受容していたことを明らかにした。さらに西川如見が『両儀集説』(1714年)の中で同書を確かに参照していることを、テキスト比較によって文献学的に裏付けた(図書4・8、学会発表18)。如見が南蛮系のテキストを確かに利用していたことは、「天学」が生み出された知的環境を考えるうえで見過ごすことのできないポイントと言える。

(2) 江戸初中期の時計駆動式天文模型

2017年にスイスで発見された時計駆動式天文模型が、17世紀日本で制作されたものであることを論証する論文「ジュネーブ天儀：17世紀日本の天文模型」を、Christopher Cullen 氏(ニードラム研究所名誉所長、ケンブリッジ大学名誉教授)との国際共著論文として刊行した(雑誌論文3・8)。これと類似の天文模型は、少なくとも1620-30年代には製作されており、その後18世紀にかけてからくり芝居や仏寺での実演講義を通じて幅広い階層の人々に展覧され、好評を博していた。江戸初中期の人々が、自動運転するこうした宇宙模型を通じて、天地の構造や天体の運行についての知識を自らのものにできたことは、「天学」が成立した社会背景を考えるうえで重要である。

またこれらの模型に用いられた時計技術は、イエズス会が日本布教に導入した技術教育に由来するもので、それが禁教後の社会にも継承されていたことを、具体的な史料に即して明らかにした(雑誌論文6、学会発表9・11)。宣教師たちは、少なくとも17世紀初頭には時計の日本国内生産を実現させていたが、その技術教育がのちの和時計に継承され、上述の天文模型やかからくりなど独自の技術的伝統を生み出したことは特筆される。

(3) 『天経或問』の流布と影響

『天経或問』の現存清刊本、和刻本、写本の総合調査を実施し、本書のテキストが辿った歴史の変遷の諸相を明らかにするとともに、その本文校訂に採用すべき諸本と校訂の方針を明らかにした(雑誌論文4・5、学会発表17)。これにより、「天学」のテキスト系譜を明らかにするための文献学的な基盤を確立した。さらに、本書がすでに17世紀末の上方で熱心な研究の対象となっていたことや、図版のみを独自に印刷したものが複数種類流通していたこと、またその和刻本は明治期まで繰り返し増刷されていたことなど、従来知られなかった多くの新事実を明らかにした。なお雑誌論文4「『天経或問』の刊本と写本」は2022年5月に日本科学史学会論文賞を受賞した。

このように『天経或問』が近世日本で幅広く受容された最大の要因は、本書が西洋流の自然探究法を、朱子学的な「然る所以の理」の探求と通底するものとして捉える統合的な研究枠組みを提示したからと考えられるが、この枠組みこそ西川如見・正休親子が「天学」の名で呼んだ学問体系の本質にほかならなかった。すなわち西洋のコスモロジーは、遊藝・西川親子の手を通じて、東アジアの伝統知識体系の中に消化・吸収されたことではじめて広く受容可能なものとなり、明治初期にいたるまで長い影響を及ぼすことになったと言える(図書3)。

最後に、全体的な成果については、次の二点に要約することができる。第一に、近世初中期における「天学」概念の成立過程を歴史的に跡付けるうえでとくに重要な『天経或問』『スヘラの抜書』などの文献史料、また「ジュネーブ天儀」などの器物史料についての分析結果を、日・英両語の論文等を通じて広く公開し、将来の国際的な研究の基盤を構築したこと。第二に、それらの著作・儀書の成立と継承のプロセスにまつわる実証的な研究成果を積み重ねたことで、「天学」概念成立の史的背景と、それが江戸時代における科学的自然探究の展開に果たした役割の重要

性について明らかにしたことである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 7件/うち国際共著 4件/うちオープンアクセス 7件）

| | |
|---|----------------------|
| 1. 著者名 HIRAOKA, Ryuji ed. | 4. 巻 32(2) |
| 2. 論文標題 Special Issue: East-West Contacts and Scientific Culture in Early Modern East Asia 2 | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 Historia scientiarum | 6. 最初と最後の頁 59-156 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 該当する |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 HIRAOKA, Ryuji | 4. 巻 32(2) |
| 2. 論文標題 The Discovery and Significance of Sufera no nukigaki (Selection on the Sphere), a Jesuit Cosmology Textbook in Japanese Translation | 5. 発行年 2023年 |
| 3. 雑誌名 Historia scientiarum | 6. 最初と最後の頁 88-116 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 平岡隆二、クリストファー・カレン | 4. 巻 26 |
| 2. 論文標題 ジュネーブ天儀：17世紀日本の天文模型 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 洋学：洋学史学会研究年報 | 6. 最初と最後の頁 49-78 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 平岡隆二 | 4. 巻 58(289) |
| 2. 論文標題 『天経或問』の刊本と写本 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 科学史研究 第3期 | 6. 最初と最後の頁 2-21 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34336/jhsj.58.289_2 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 HIRAOKA, Ryuji | 4. 巻 29(1) |
| 2. 論文標題 Printed Editions and Manuscripts of Tianjing Huowen | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Historia scientiarum | 6. 最初と最後の頁 80-111 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34336/historiascientiarum.29.1_80 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 HIRAOKA, Ryuji | 4. 巻 7(2) |
| 2. 論文標題 Jesuits and Western Clock in Japan's "Christian Century" (1549-c.1650) | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Jesuit Studies | 6. 最初と最後の頁 204-220 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/22141332-00702004 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 TAKEDA, Tokimasa and HIRAOKA, Ryuji eds. | 4. 巻 29(1) |
| 2. 論文標題 Special Issue: East-West Contacts and Scientific Culture in Early Modern East Asia | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Historia scientiarum | 6. 最初と最後の頁 1-135 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34336/historiascientiarum.29.1_1 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 CULLEN, Christopher and HIRAOKA, Ryuji | 4. 巻 60 |
| 2. 論文標題 The Geneva Sphere: An Astronomical Model from 17th Century Japan | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Technology and Culture | 6. 最初と最後の頁 219-251 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1353/tech.2019.0007 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 平岡隆二 | 4. 巻 2 |
| 2. 論文標題 小林謙貞伝 - 長崎の史料を中心に - | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 長崎学：長崎市長崎学研究所紀要 | 6. 最初と最後の頁 19-33 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計19件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 7件)

| |
|---|
| 1. 発表者名 平岡隆二 |
| 2. 発表標題 イエズス会日本布教と宇宙論：新出写本『スヘラの抜書』を中心に |
| 3. 学会等名 科研学術変革B「中近世における宗教運動とメディア・世界認識・社会統合 (ReMo研)」イエズス会班報告会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 平岡隆二 |
| 2. 発表標題 Greco-Roman Cosmology in Japan's 'Christian Century (1549-c.1650)' |
| 3. 学会等名 科研基盤B「日本における西洋古典受容に関する包括的・学際的な国際共同研究」報告会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 HIRAOKA, Ryuji |
| 2. 発表標題 The Discovery and Significance of Sufera no nukigaki (Selection on the Sphere), a Japanese Translation of Jesuit Cosmology Textbook |
| 3. 学会等名 International Symposium 'Religion, Translation and Transnational Relations: Japan and (Counter-) Reformation Europe,' Lepzig University (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 平岡隆二 |
| 2. 発表標題 イエス会の日本語宇宙論教科書『スヘラの抜書』の発見とその意義 |
| 3. 学会等名 日本科学史学会年会 |
| 4. 発表年 2022年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 HIRAOKA, Ryuji |
| 2. 発表標題 A Public Cosmology Lecture with a Clockwork Astronomical Model in 18th Century Japan |
| 3. 学会等名 26th ICHST 2021 (International Conference of History of Science and Technology), Prague. (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 平岡隆二 |
| 2. 発表標題 イエス会科学と近世仏教：初中期仏僧の西洋地球説への反応を中心に |
| 3. 学会等名 科学学術変革B、ReMo研合同研究会「科学、医療、宗教の相互連関 中近世のキリスト教と仏教を中心に」 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 平岡隆二 |
| 2. 発表標題 開陽丸引き上げ文書と梅文鼎『曆算全書』 |
| 3. 学会等名 洋学史学会オンラインシンポジウム「開陽丸引き揚げ文書について 幕府天文方と開陽丸」 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 HIRAOKA, Ryuji |
| 2. 発表標題 Buddhist Reaction to the Western Theory of Round Earth in 17th and 18th Century Japan |
| 3. 学会等名 The 6th History of Mathematical Sciences: Portugal and East Asia VI: Measuring Time, Heaven and Earth, Seoul. (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名 平岡隆二 |
| 2. 発表標題 時計伝来とキリシタン |
| 3. 学会等名 科研基盤B「近世日本のキリシタンと異文化交流」報告会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 平岡隆二 |
| 2. 発表標題 キリシタン布教における理性と信仰 |
| 3. 学会等名 北白川EFE0サロン2019-2020：日本における信仰と「知」のはざま |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--------------------------|
| 1. 発表者名 平岡隆二 |
| 2. 発表標題 キリシタンと和時計 |
| 3. 学会等名 日本科学史学会京都支部例会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 HIRAOKA, Ryuji |
| 2. 発表標題 The Crossroad of Jap. Sin. Missions: Historical Materials in Nagasaki |
| 3. 学会等名 Nagasaki Historical Tour: A Prelude to the International Workshop (organized by the Ricci Institute, University of San Francisco) (招待講演) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 HIRAOKA, Ryuji |
| 2. 発表標題 The Historiography of the Jesuits and Western Science in Japan |
| 3. 学会等名 15th International Conference on the History of Science in East Asia (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 HIRAOKA, Ryuji |
| 2. 発表標題 Cosmological Interests in 17th Century China and Japan: The Case of You Yi's Tianjing Huowen |
| 3. 学会等名 Science, Western Learning and Confucianism: Commemorating the 390th Anniversary of the Compilation of the Chongzheng-Reign Treatises on Calendrical Astronomy (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 HIRAOKA, Ryuji |
| 2. 発表標題 Jesuits and Western Clock in Japan's 'Christian Century (1549-c.1650)' |
| 3. 学会等名 The Second International Conference on History of Mathematics and Astronomy 'Science and Civilization in Ancient World' (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 HIRAOKA, Ryuji |
| 2. 発表標題 Jesuit Cosmology in 'Christian Century (1549-c.1650)' Japan |
| 3. 学会等名 中国科学院自然科学史研究所學術報告（招待講演） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|-------------------------------|
| 1. 発表者名 平岡隆二 |
| 2. 発表標題 『天經或問』の写本流布と和刻本の出版 |
| 3. 学会等名 日本科学史学会年会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 HIRAOKA, Ryuji |
| 2. 発表標題 Deciphering Aristotle with Chinese Medical Cosmology: Nanban Unkiron and the Reception of Jesuit Cosmology in 17th-Century Nagasaki |
| 3. 学会等名 International Conference on Traditional Sciences in Asia 2017 'East-West Encounter in the Science of Heaven', at Kyoto University（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 平岡隆二 |
| 2. 発表標題 長崎聖堂の学問と教育 - 向井元成、唐蘭御用、地役人教育 - |
| 3. 学会等名 洋学史学会ミニ・シンポジウム「近世長崎の人と学問 - 『長崎先民伝注解』によせて - 」、於電気通信大学 |
| 4. 発表年 2017年 |

〔図書〕 計11件

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 岩城卓二、上島享、河西秀哉、塩出浩之、谷川穰、告井幸男編著 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 ミネルヴァ書房 | 5. 総ページ数 388 |
| 3. 書名 論点・日本史学（項目執筆：平岡隆二「キリシタンと科学伝来 - 宣教師はなぜ西洋科学を紹介し、どのように受容されたのか」170-171頁） | |
| 1. 著者名 洋学史学会、青木歳幸、海原亮、沓澤宣賢、佐藤賢一、イサベル・田中・ファンダーレン、松方冬子編 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 思文閣出版 | 5. 総ページ数 516 |
| 3. 書名 洋学史研究事典（項目執筆：平岡隆二「沢野忠庵」62頁、「ビュルゲル」68頁、「坤輿万国全図」131頁、「西学書」149頁、「長崎遊学」171-172頁） | |
| 1. 著者名 日本科学史学会編 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 丸善出版 | 5. 総ページ数 758 |
| 3. 書名 科学史事典（項目執筆：平岡隆二「江戸時代の天文暦学：西洋天文学知の多様な自己化」318-321頁） | |
| 1. 著者名 Bill M. Mak and Eric Huntington eds. | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 Brill | 5. 総ページ数 297 |
| 3. 書名 Overlapping Cosmologies in Asia: Transcultural and Interdisciplinary Approaches (Chapter 4: HIRAOKA, Ryuji, "Deciphering Aristotle with Chinese Medical Cosmology: Nanban unkiron and the Reception of Jesuit Cosmology in Early Modern Japan." pp. 98-115) | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 岸本恵実、白井純編 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 八木書店出版部 | 5. 総ページ数 168 |
| 3. 書名 キリシタン語学入門（分担執筆：平岡隆二「東西コスモロジーの出会いとキリシタン文献」39-40頁） | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 平井松午、島津美子編 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 創元社 | 5. 総ページ数 344 |
| 3. 書名 稿本・大名家本 伊能図研究図録（分担執筆：平岡隆二「長崎歴史文化博物館収蔵「伊能図」」267-273頁） | |

| | |
|--------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 日本思想史事典編集委員会編 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 丸善出版 | 5. 総ページ数 744 |
| 3. 書名 日本思想史事典（執筆項目「蘭学（洋学）」） | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 武田時昌、麥文彪編 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 京都大学人文科学研究所 | 5. 総ページ数 512 |
| 3. 書名 天と地の科学：東と西の出会い（分担執筆：平岡隆二「アリストテレスを運氣論で読み解く - 『南蛮運氣論』と17世紀長崎における西学理解 - 」396-407頁） | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 長崎県美術館（福光葉子）編 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 長崎県美術館 | 5. 総ページ数 215 |
| 3. 書名 クアトロ・ラガッツィ 桃山の夢とまぼろし 杉本博司と天正少年使節が見たヨーロッパ（分担執筆： 平岡隆二「クアトロ・ラガッツィ外伝：出会いと発見の騒動記」174-179頁） | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 Luis Saraiva and Catherine Jami eds. | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 World Scientific | 5. 総ページ数 366 |
| 3. 書名 Visual and Textual Representations in Exchanges between Europe and East Asia (Part: Contributor, HIRAOKA, Ryuji, "Jesuits, Cosmology and Creation in Japan's "Christian Century" (1549-1650)", pp. 223-243) | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 Japan Society ed. | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 Skira Rizzoli | 5. 総ページ数 216 |
| 3. 書名 Hiroshi Sugimoto: Gates of Paradise (Part: Contributor, HIRAOKA, Ryuji "Much Ado about Japan and Quattro Ragazzi," pp. 101-119) | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|

| | | | | |
|-----|--|--|--|--|
| ドイツ | ルール大学ボーフム | | | |
| 英国 | ケンブリッジ大学 | | | |
| 英国 | Needham Research Institute, Cambridge | | | |